

第 8 章 教職実践演習

□ 教職実践演習の学修にあたっては、所定の要件（履修科目登録の要件、スクーリング受講要件等）を満たす必要があるため、教職実践演習科目の「学修指導書」を熟読すること。

1. 教職実践演習の概要

「教職実践演習」は教職課程履修の総まとめとして、4 年次の教育実習後（※）に受講する科目となり、これまでに身につけてきた知識・技能を振り返り、教員として最低限必要な資質能力が身に付いているかを確認するためのものである。これからの教員には社会で求められる人材像を踏まえた教育の展開、学校現場の諸課題への対応を図るために社会からの尊敬・信頼を受け、思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を有することが求められている。また、教職生活全体を通じて実践的指導力等を高めるとともに、探究力を持ち学び続ける存在でなければならない。本科目の履修にあたっては、学修指導書を熟読し、スクーリング受講に備えて早めに準備を行うことが求められる。

※基礎資格（学士等）取得予定者は、基礎資格（学士等）取得見込み年度にのみ履修可能である。

これからの教員に
求められる資質能力

1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
2. 社会性や対人関係能力に関する事項
3. 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項
4. 教科・保育内容等の指導力に関する事項

2. 教職実践演習の履修科目登録の要件

教職実践演習を履修科目登録するためには、履修科目登録年度の年度はじめに以下の（１）と（２）の要件の両方を満たす必要がある。

- （１）基礎資格（学士等）を取得済み、もしくは教職実践演習の履修年度に取得見込みである（正科生の場合、4 年次にのみ履修可）。
- （２）対象の教員免許状の必要科目（教育実習科目含む）のすべてについて、単位修得済み、もしくは教職実践演習の履修年度に単位修得見込みである。

3. 教職実践演習のスクーリング受講の要件

- （１）教育実習終了後（事後指導スクーリングの受講含む）、必要科目の学修が完了している必要がある。

- (2) スクーリング受講2週間前までに取得希望の教員免許状のすべての必要科目の単位を修得済みもしくは成績(合格)がでていること、または必要科目のうち最低でも4分の3以上の科目の単位を修得済みもしくは成績(合格)が出ていること。
- (3) スクーリング受講2週間前までに「教職課程履修カルテ」「自己評価表」を所定の方法で提出していること。

※受講2週間前までにいずれかでも要件を満たしていない場合は、スクーリング受講不可

※自身の学修スケジュールと、「教職実践演習」のスクーリングスケジュールを確認のうえ、適切な時期のスクーリングを受講すること。

4. 事前提出課題

「教職課程履修カルテ」「自己評価表」には、教職課程の科目履修を始めてから「教育実習」を経て「教職実践演習」を履修するまでの学修状況の記録及び「教育実習」の前後に実施される「教員として必要な資質」についての自己評価を記入する。「教職課程履修カルテ」「自己評価表」を記入することによって、学生自らが「共生」という本学の建学の精神を踏まえつつ教員免許状取得に向けてどのような学修が必要なのかを考え、また「教職実践演習」や補完的な教職指導に活用する。

※「教職課程履修カルテ」「自己評価表」のほか、別途、学修指導書に課題の指示がある場合は、併せて準備すること。

(1) 教職課程履修カルテ

年2回、3月末、9月末の単位認定ごとに入力し、教職実践演習のスクーリング受講2週間前までに学生ポータルサイトの提出フォームから提出(アップロード)すること。ただし、教職実践演習を受講する年度は、単位認定前であってもすべての必要科目について入力を済ませること(履修中の科目は、スクーリング受講2週間前の時点での振り返りを入力する)。

※初等あるいは中等で複数の校種・教科の免許状の取得を目指している場合は、実施した教育実習の校種・教科の同カルテを提出すること。

※「修得年度」は4月生、10月生ともに4月～翌年3月の学校暦としての年度を記入すること。

※他大学で修得済み科目がある場合、他大学の様式で作成した教職課程履修カルテの提出も必要。

<様式> 学生ポータルサイト→教職課程登録者用ページ→各種様式

<提出先> 学生ポータルサイト→教職課程登録者用ページ→教職実践演習

1) 対象の教員免許状のすべての必要科目について記入すること。

介護等の体験や学校ボランティアを実施していない場合、該当欄への記入は不要。

※他大学で修得した科目は他大学で作成した「教職課程履修カルテ」を提出すること。準備できない場合、教職実践演習履修年度の年度はじめに教職総合支援センターまで相談すること。

※実務経験を実習単位に振り替えることにより教育実習を実施しない場合、また他大学で教育実習（取得希望免許状と同一校種）を実施済みでかつ教育実習日誌が手元にない場合は、別途課題提出が必要であるため、教職実践演習履修年度の年度はじめに教職総合支援センターまで相談すること。その場合、「自己評価表」の提出は不要である。

2) 入力後、区分にあるすべての項目を入力しており、誤字・脱字・表記表現の誤りなどがないよう見直すこと。

3) 各ページの記入時期については下表を確認すること。

項 目	記入時期
教科及び教科の指導法に関する科目	単位認定（3月末、9月末）ごとに入力。 教職実践演習受講年度の履修科目は教職実践演習スクーリング受講2週間前までに状況を入力。
教育の基礎的理解に関する科目等（各科目に含める必要事項については次ページの表を参照すること）	
介護等の体験について	実施学生は施設にて介護等の体験が終了した後、速やかに入力。
学校ボランティア	学校ボランティアを行った際に入力。

4) 各項目に含めるべき必要事項については下表を参考にすること。

【初等】

各科目に含める必要事項	本学科目名
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理
教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職概論
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育経営・学校安全論
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学

特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒の理解
教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論
道徳の理論及び指導法	道徳の理論・指導法（初等）
総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法（初等）
特別活動の指導法	特別活動の指導法（初等）
幼稚園：教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 小学校：教育の方法及び技術／情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術論（情報通信技術の活用含む）（初等）
幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論と方法
生徒指導の理論及び方法／進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒・進路指導論（初等）
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談
教育実習	教育実習（初等）（１）（２）

【中等】

各科目に含める必要事項	本学科目名
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理
教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職概論
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育経営・学校安全論
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒の理解
教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論
道徳の理論及び指導法	道徳の理論・指導法（中等）
総合的な学習の時間の指導法／総合的な探究の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法（中等）
特別活動の指導法	特別活動の指導法（中等）
教育の方法及び技術／情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術論（情報通信技術の活用含む）（中等）

生徒指導の理論及び方法／進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒・進路指導論（中等）
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談
教育実習	教育実習（中等）Ⅰ（１）（２）

※他大学等で教職課程を履修する場合には、その大学等から「教職課程履修カルテ」の提出を求められることもある。「教職課程履修カルテ」は教育職員免許状を取得するまで大切に保管しておくこと。

（２）自己評価表

教育実習終了後（事後指導スクーリングの受講含む）、教職実践演習のスクーリング受講２週間前までに「教職課程履修カルテ」とともに提出（アップロード）すること。

教育実習事前指導スクーリングの受講後、および教育実習終了後のそれぞれの時期に５段階で自己評価をし、教育実習実施後は「自己課題」を具体的に記載すること。

＜様式＞ 学生ポータルサイト→教職課程登録者用ページ→各種様式

＜提出先＞ 学生ポータルサイト→教職課程登録者用ページ→教職実践演習

留意点

- ・期限までに「教職課程履修カルテ」および「自己評価表」の提出が確認できない場合、教職実践演習は受講できないので、注意すること。
- ・受講の際には必ず実習日誌（コピー）を準備すること。
- ・そのほか注意事項については「学修指導書」を確認すること。

資料 3-2-1 小学校外国語講座の実施内容

1. 実施内容

小学校に外国語活動が導入される際に、現場の教員に研修を実施した講師が、豊富な経験をもとに小学校外国語に特化した内容の集中講義を行なう。

また、小学校外国語活動にどのように ICT を取り入れることができるか、具体的な授業案や事例をもとにグループディスカッションを行ない、模擬授業作成、模擬授業発表までを行なう。

2. 対象

本学で教職課程登録をしている学生（正科生・科目等履修生問わない）

3. 実施日時

夏季：2024 年 8 月 24 日（土）、25 日（日）、27 日（火）

冬季：2025 年 1 月 11 日（土）、12 日（日）、13 日（月・祝）

※夏季または冬季のいずれかで 3 日間での受講、3 日間とも休憩を含め 10 時～17 時開催

4. 受講方法

Zoom によるオンライン受講で全国どこからでも受講可

5. 講義内容

集中講座	内容
1 日目	①導入・アイスブレイク（講師） ②日本における小学校外国語教育の歴史（講師） ・戦前、戦後／1980 年代／1990 年代／2000 年代／2010 年代～ ③ミニ模擬授業（参加者） ・ブレイクアウトルームで教科書の指定ページのミニ模擬授業作成 ④ミニ模擬授業の発表 ・参加者同士でコメント
2 日目	①ミニ模擬授業（参加者） ②3 日目に向けたロイロノートの説明（講師） ③特別に支援を要するこどもたちの英語指導について（講師） ・特別支援を必要とする児童の外国語活動 ・障害の種類と特徴および指導内容と方法
3 日目	①ロイロノートに関する質問受付、基本的な使い方の説明（講師） ②ロイロノート活用のミニアクティビティ（講師）

	③ロイロノートを活用したミニ模擬授業（参加者） ④小中連携に関する講義（講師） ⑤3 日間のまとめ
--	---

星槎大学

教育実習のしおり

年度

学 籍 番 号		氏 名	
学 校 ・ 園 名			
実 習 期 間	年 月 日 () ~ 年 月 日 ()		

紛失厳禁 教育実習時に持参すること！

目 次

I	教育実習とは何か	2
	1. 教育実習の意義	
	2. 教育実習の目的	
	3. 教育実習の内容	
	4. 教育実習の履修資格	
II	教育実習の心得	4
	1. 教育実習事前確認（オリエンテーション含む）	
	（1）教育実習事前確認時の基本的心得	
	（2）教育実習事前確認の際の確認事項	
	2. 教育実習	
	（1）基本的な心得	
	（2）教育実習期間中の携帯品	
	（3）服装	
	（4）勤務上の注意点	
	（5）情報の取り扱い	
	（6）園児・児童・生徒に接する心得	
	（7）教育実習の実務についての心得	
	（8）教育実習日誌	
	（9）教育実習終了後	
	3. 大学との情報共有	
III	教育実習年度の書類の流れと必要な手続き	9
	1. 教育実習年度初めの流れ	
	2. 各種書類	
	3. 2で送付した書類及びその他準備物	
	4. その他教育実習に関わる留意点	
	5. 教育実習終了後	
	6. 教育実習日誌返却	
IV	教育実習に備えて提出する書類	12
V	健康診断・麻しん抗体検査・予防接種	13
VI	教育実習科目	14
VII	教育実習個別指導体制	15
	教員免許状取得までの流れ	裏表紙

星槎大学「教員養成の理念」

星槎大学共生科学部における教員養成の理念は以下のとおりである。

【星槎大学共生科学部 教員養成の理念】

星槎大学共生科学部共生科学科は、人と人と、あるいは人と自然とが共生する社会の創造に貢献することを目的とした「共生」という建学の精神をふまえ、21 世紀に適応する広い知力の育成、心の耕作、課題探求能力育成を主要な柱として、それを教育理念としている。

その人材養成目標は、次代へと続く共生社会に寄与する人材の輩出にある。

共生社会の創造に貢献するために、子どもたちへ本学で学修したことを伝えていくことができる人材を輩出することが、本学における教員養成の理念である。

星槎大学「教職課程の設置の趣旨」

星槎大学共生科学部における教職課程の設置の趣旨は以下のとおりである。

【星槎大学共生科学部 教職課程の設置の趣旨】

星槎大学は、「建学の精神」「教育理念」を「教員養成に対する理念」の基礎としている。

本学が教職課程を設置する趣旨は、それらを具現化することにある。具体的には、以下のような教員を養成することにある。

- (1) 21 世紀の変化に応じた知識・技能の絶えざる刷新を指向する教員の養成
- (2) 共生する心を耕作することのできる教員の養成
- (3) 課題探求能力をもった教員の養成
- (4) 発達障害児等を指導する能力をもった教員の養成

また、本学校法人の建学の精神である「社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる」ということと、教育理念である「必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現を目指し、それを成し遂げる」というものは、本学設置の大元にあるものであり、全ての教育活動に共通するものである。

「教育実習のしおり」は、教育実習の実施にあたって心がける点について詳細に案内している。熟読し、実習時にも必ず持参し状況に応じた言動が取れるようにすること。

資料 3-2-3 社会福祉施設における介護等体験自己評価票

星槎大学 介様式 6

社会福祉施設における介護等体験 自己評価票

施設名		体験期間	年 月 日～ 月 日 (, , , , ,)
体験の目標	【体験前に立てた課題やテーマ等】		
自己評価・感想	Q1 体験の目標は達成できましたか？ (達成できたこと、できなかったこととその理由等を具体的に記入して下さい)。		
	Q2 社会福祉施設や利用者に関するイメージが変わりましたか？ 1 変わった 2 どちらともいえない 3 変わらない (理由)		
	Q3 今後の学生生活や教員になった時の参考になると思ったことがありますか？		
施設での体験について	Q4 全般的な感想や印象に残ったこと、今後の自分なりの課題等		
	Q1 今回の体験の満足度 1 満足 2 やや満足 3 どちらともいえない 4 やや不満 5 不満		
	Q2 受入側の対応や体験内容について 1 満足 2 やや満足 3 どちらともいえない 4 やや不満 5 不満		
	Q3 施設への要望他 (自由回答)		
星槎大学 共生科学部 (専攻)			
学籍番号		学年 年	氏 名

資料 3-2-4 学校ボランティア シラバス

授業科目名：	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：	担当教員名：
学校ボランティア		1単位	齋藤憲子・齋藤やす子
			担当形態： 複数
実務内容 (実務家教員の場合)	小学校教諭・高等学校教諭としての経験を持つ教員が、学校現場の実情と学校ボランティアに求められる意欲・姿勢等を指導する。		
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	なし		
「学位授与の方針」との関係			
DP2. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）			
授業のテーマ及び到達目標			
学校ボランティアの実体験をすることにより、園及び学校、園児及び児童・生徒の様子、教師の仕事等について理解をすることができる。 学校ボランティア活動を通して、教職に対する自己の適性について考えることができる。			
授業の概要			
学校ボランティアは教育実習の前段階として位置付けられている。教育現場での観察、参加を通して園児・児童・生徒の様子、教師の仕事の観察や手伝い、行事への参加等を通して園・学校の様子を知る。これらの活動については記録をし、振り返るとともに、大学教員の指導を受ける。また、この活動を通して、教育者としての自己の課題を掘むことができる。年度末にはWebスクーリングを受講し1年間の成果をまとめる。			
授業計画			
※スクーリングを受講するにあたり担当教員の面談を受ける。 第1回から第5回まではオンデマンドにより学修 第1回：オリエンテーション 第2回：学校ボランティアの意義、目的 第3回：学校ボランティアの諸手続き 第4回：学校ボランティア参加心得①（訪問の手順、手続き・提出書類、実習計画表、学校ボランティアのお礼状等） 第5回：学校ボランティア参加心得②（服装、身なり、言葉遣い、やむを得ず欠席する場合の届け等、禁止事項） 第6回：教員の仕事の観察、手伝いから学んだことについて記録と報告をする。 第7回：園児・児童・生徒の観察、交流から学んだことについて記録と報告をする。 （園児・児童・生徒との活動において、誤解を招く行動・行き過ぎた行動ととられないように十分気を付けて行動をすること） 第8回：地域との関わりについて学んだことについての記録と報告をする。 第9回：保護者との関わりから学んだことについての記録と報告をする。 第10回：これまでの教育実践を通して心に残ったことを書く。 第11回：これまでの教育実践を振り返り、つらかったことについて書く。 第12回：これまでの教育実践を通して、教職に対する自身の思いを書き提出する。 第13回：これまでの記録を基に、交流・指導を受ける 第14回：取り組みの振り返りをする。 第15回：学校ボランティアのまとめをする。 科目修得試験			
スクーリングでの学修			
スクーリングは、オンデマンドスクーリング（第1回～第5回）、Webスクーリング（第13回～第15回）が行われる。			
テキスト 「教員を目指す人のために ―初等教育編―」			
参考書・参考資料等			
学校ボランティアの校種の学習指導要領を参考資料としてください。 文部科学省「幼稚園教育要領」 https://www.mext.go.jp/content/20230308-mxt_kyoiku02-100002607_001.pdf ISBN 978-4-577-81447-5 文部科学省「小学校学習指導要領解説 総則編」 https://www.mext.go.jp/content/20230308-mxt_kyoiku02-100002607_001.pdf 文部科学省「中学校学習指導要領解説 総則編」 https://www.mext.go.jp/content/20230308-mxt_kyoiku02-100002607_001.pdf 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総則編」 https://www.mext.go.jp/content/20211102-mxt_kyoiku02-100002620_1.pdf			
学生に対する評価			
活動記録評価（50%） 科目修得試験（50%）			